

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月8日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694500267
法人名	社会福祉法人 みらい
事業所名	グループホーム やすらぎの里
所在地	鹿児島県始良市下名2992番地 (電話) 0995-66-2571
自己評価作成日	令和6年2月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年2月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎社会福祉法人みらい「グループホームやすらぎの里」は高齢者福祉施設の1事業所であり、併設事業所として特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスセンター、認知症対応型デイサービスセンター、居宅介護支援事業所、チームヘルパー、小規模多機能ホーム等があり併設事業所間での連携や災害対策や法人の行事等協力体制が整っており、また地域における高齢者福祉の拠点となっている。

◎自治会に加入し地域の校区コミュニティー協議会や地域ネットワーク会議への参加、地域の行事等に積極的に参加するなど、地域との関わりの中で地域住民との情報交換等行っている。

◎当ホームは自然に囲まれ、中でも自慢は豊富な天然温泉が湧出することで、いつでも温泉浴ができるなど入居者より好評を得ている。また敷地内に足湯を敷設し当法人の入居者や利用者のみならず、地域住民や来園者も楽しめるようにしている。

◎自施設だけ生活にならぬよう併設事業所の行事に参加したり、また地域の行事等にも参加することで、地域との繋がりが切れることがないよう支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・母体である社会福祉法人は高齢者総合福祉施設であり、広い敷地内に特別養護老人ホーム、小規模多機能等、多様な介護サービス施設が展開され、地域福祉サービスの拠点となっている。
- ・地域のコミュニティー協議会や地域行事への参加、法人行事への地域住民参加も多く、協力体制や連携が図られている。広い敷地内の一角に足湯を設置し、家族や地域住民が自由に利用できる環境となっており、喜ばれている。
- ・事業所看護師の配置と法人医務課との連携が図られ、24時間医療連携体制が整っている。
- ・管理者・職員のコミュニケーションが良好で、意見や要望・提案等が出しやすい環境である。資格取得や資質の向上に向けての研修会開催や外部研修への参加奨励で質の高いサービス提供を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を日々の業務において形にできるよう法人全体の職員会議議題に明記、事業所に掲示している。	理念と運営方針がホームページ、パンフレット、重要事項説明書に記載されている。事業所内に掲示、ネームプレートに記載し常に携帯されている。毎月の職員会議時に振り返りが行われ、理念に沿ったケアが実践されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺地域の行事や他の併設事業所が行う行事等に参加することで関係性が維持できるよう取り組んでいる。	自治会に加入し、地域行事や地区のコミュニティ協議会、地域ネットワーク会議等へも積極的に参加している。近隣住民の法人行事への参加や野菜の差し入れも多数あり、日常的に交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方々の抱えている悩みや相談等が気軽に話せる場として、いつでも来所できるように入口をオープンにしている。また、グループホームの入居者との触れ合いの中で、入居者の不安やプライバシーに十分配慮しながら認知症の方を理解していただくという機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域の代表（自治会長他）、民生委員の方々、地域包括支援センターへ呼びかけ運営推進会議を開催し、事業所の運営状況および地域の課題に対して協議している。	2ヶ月毎に開催され、事業所の現状や事故・ヒヤリハット報告・地域の課題等、積極的な意見交換を行っている。認知症に関する相談があり、地域で立ち上げられた劇団に協力し、参加している。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃より市町村担当者とは連携を取っており運営上の疑問・問題点などが発生した場合は速やかに連絡し、運営推進会議等で地域包括職員に相談・指導を受けるようにしている。	市の担当者とは、書類提出や相談等で窓口に出向いたり電話で連携を図っている。地域包括支援センター職員は運営推進会議に参加がある。市主催の研修会へは積極的に参加し情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束廃止委員会を設置している。毎月定期的に会議を開催し、また法人全体で高齢者虐待や身体拘束廃止についての研修会を行うなど、全事業所の職員が参加する機会がある。	指針・マニュアルがあり、身体拘束廃止委員会を設置し、毎月会議を開催している。年間研修計画に沿って、虐待や身体拘束についての研修会を行い実施している。スピーチロックも含め身体拘束ゼロが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている	法人全体で人権擁護委員会を設置し、毎月委員会活動を行っている。虐待防止について職員全体研修に参加している。様々な心身への虐待についての知識や防止について全職員に周知徹底し虐待のないケアの実践に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を利用している入居者はいないが、人権擁護委員会を設置し、毎月の定例委員会にて研修会や意見交換等を行い理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、またその解除においては、重要事項説明書書および利用契約書を用いて十分に説明を行い、理解納得を得たうえで契約を締結・解除している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃より入居者や家族と積極的にコミュニケーションを図り、意見箱の設置をしたり、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	利用者からは日常会話の中から、家族からは面会時や電話連絡時に意見や要望等を聞いている。意見箱も設置し、意見や要望が出しやすい環境作りに努めている。出された意見や要望は職員会議で話し合い運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	業務内容の見直しや改善すべき事案については管理者と常にコミュニケーションをとりやすい環境づくりに努めている。	職員会議や朝礼時に意見や提案・要望等を聞く機会がある。管理者とのコミュニケーションが日常的に図られている。出された意見等は申し送りノートで共有し、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得や自己研鑽の為の各種研修への参加、職員との面談の中で、様々な意見を聞きながら、働きやすい環境・労働意欲や向上心を持てる労働条件の整備を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は事業所内外の研修への参加を積極的に勧めている。毎月職場全体研修にて各テーマに沿った研修会に参加している。また外部研修（オンライン）にも積極的に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県や地区のグループホーム協議会の主催する事業所同士の研修に参加し、意見交換を通してお互いの事業所の情報交換を行いサービスの向上に努めている。また法人内の研修に参加し交流を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、本人や家族の想い、生活状況等を確認し必要に応じた支援を見極め、事業所でのサービス内容を共有し、早急な対応が必要な時相談者には可能な限り柔軟な対応をし、当ホームに空きがない場合は、他の事業所のサービスを紹介する等の対応・対策を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時、家族との面談を行い、ご家族の困っていることや不安、要望等をお聞きして家族の状況を把握することによって、よりよい信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の想い、生活状況等を確認し必要に応じた支援を見極め、事業所でのサービス内容を共有し、早急な対応が必要な時相談者には可能な限り柔軟な対応をし、当ホームに空きがない場合は、他の事業所のサービスを紹介する等の対応・対策を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に家事を行うようにしている。掃除・料理・買い物・洗濯物たたみ等残存機能を生かしつつ、本人の得意なことを活かせる場面づくりを日常的にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要に応じてホームでの生活状況や健康状態を知らせ、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、日頃から家族とのコミュニケーションを図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域や馴染みの美容室に訪問してもらったりと馴染みの人々が来やすいようにしている	利用者は地域に住んでいた方が多く、系列のデイサービス利用時に友人や知人が面会に来られたり、家族の面会も多い。地域の美容師による定期的な訪問がある。電話や手紙の取り次ぎ等も行い、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや洗濯物たたみなどの家事活動を通して利用者同士の関係がうまくできるように支援している。利用者のトラブルが起こらないために気分や感情、座席の配置などにも細心の注意を払っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に移った利用者のあるところに入居者とともに面会に行ったり事業所にも遊びに来る等相互間に行き来することでこれまでの関係を継続できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で本人の思いや生活に関する意向等についてコミュニケーションを通して把握できるよう努めている。	入居時のアセスメント、家族からの情報、日々の関わりの中から思いや意向を把握し、職員間で共有している。意思表示の困難な場合は家族の意向も踏まえ、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前にご本人やご家族と面談を行う中で、これまでの生活歴やグループホーム入居に至る経緯等聞き取りケアに反映できるよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムや心身状態を記録し、本人の全体像の把握に努めている、できる事に着目し、家事や趣味活動等個別に対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や担当者会議等の場において本人並びにご家族の双方に必ず生活に対する意向や希望・要望等を確認し、介護サービス計画書に反映させている。	モニタリングは支援記録に毎月記録し、3ヶ月毎に評価表の見直しをしている。介護計画は6ヶ月毎、状態変化時には随時見直しを行っている。主治医の意見、本人家族の意向等も踏まえ現状に即した介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や生活記録には職員が支援した内容を記載することはもちろんのことであるが、利用者の日々の生活の様子が確認できるような記録作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人ご家族の希望や状況により病院受診など必要な支援には柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域住民との交流や民生委員や市のボランティアポイント制度を利用しているボランティアの受け入れがままならなかったが、今後社会の感染状況を見ながら地域と連携をとりながら入居者が楽しめる環境づくりに努めていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や本人・家族が希望する医療機関から定期的に訪問診療を受け、また薬剤師による服薬指導や助言をもらうなど医療連携を行っている。	入居前からのかかりつけ医による定期的な往診がある。他科受診は家族が同行し、必要に応じて歯科往診も可能となっている。薬剤師による服薬指導を受けている。健康管理は事業所の看護師が行い、特別養護老人ホームの医務課との連携もあり、24時間医療体制ができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師は入居者の疾病や症状について、日々のケアの中で情報収集し、症状が悪化しないよう主治医と連絡をとり対処している。また状態悪化による受診の判断は主治医をはじめ併設施設医務課の協力を得ている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院された際、家族とも連絡を取りながら症状の把握を行い、主治医にも経過報告しながら三者で連携を図り、調整している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期の在り方については、指針は作成しているが、現在看取りは行っていない。重度化や終末期については併設施設と連携していること等家族へ説明している。</p>	<p>重度化や終末期についての指針があり入居時に家族へ説明し、同意書を貰っている。系列施設の特別養護老人ホームや医療機関への選択肢等も主治医から説明があり、状況に応じて家族の意向に沿った支援を行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>各入居者の急変や事故発生を想定して連絡体制のマニュアルを作成している。消防署の協力で心肺蘇生術の研勉強会を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署立ち合いの下、法人全事業所を対象にした火災発生時や自然災害時の対応についての訓練を実施している。また災害が発生しても業務継続ができるようBCPを策定している。</p>	<p>昼夜想定での総合避難訓練を年2回、消防署立ち合いのもと実施している。連絡網を整備し、敷地内各事業所や地域自主防災組織の地域との協力体制も整っている。住民受け入れ体制もある。防災ラジオもある。備蓄は法人で3日分ある。ホームにも米・水・排泄用品等を用意している。事業継続計画（BCP）も策定している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>ミーティング等で職員の意識向上を図り、入居者のプライドやプライバシーを損なわない対応の徹底を図っている。記録等個人情報に関しては、保管場所に注意している。</p>	<p>マニュアルがあり、接遇・人権擁護・個人情報保護等を計画的に勉強会を実施している。申し送りは聞こえないようにし、呼称はさん付けである。日頃から意識の統一を図り、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>入居者の希望や好みを把握し一人一人に合わせた声かけ職員側の押し付けにならぬよう複数の選択肢を提案し自己決定できるようにしている。意思表示の困難な方は表情や態度を読み取り表現しやすいように対応している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人の体調に配慮しながら入居者のペースに沿って柔軟に対応し個別性のある支援を行っている。一人一人のやりたいことを把握し見守っている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>起床後の洗面と同時に鏡を見ながら髪の手入れや入浴後の洋服選びなど、入居者の好みを聞いて一緒に行っている。また本人やご家族からの希望に応じて理美容の支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮なものを取り入れ、また季節ごとの行事食を用意するなど、食事を楽しむ支援を行っている。また入居者によっては配膳の準備等と一緒にやっている。	食事形態やアレルギーに対する代替え食等、職員が調理している。旬の食材や菜園で収穫した野菜等を使用し、季節毎の行事食や花見弁当、桜餅等のお菓子作りで食事が楽しめるような支援を行っている。下ごしらえ等を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じた食事量・水分量・残食量等を把握して不足しないようにし、栄養バランスや見た目を大事にして楽しみをもてるよう食事づくりに努め、併設施設の管理栄養士から助言をもらっている。食事や水分摂取量は食事ごとに記録している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯の洗浄や、歯磨きの声かけや誘導を行い、入居者全員の口腔ケアに努めている。自力でできない方には、見守りや動作の一部を手伝いながら行っている。就寝前には義歯全錠剤による消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄のサインを見極め、様子観察しながらさりげなく声かけ・誘導を行っている。夜間の転倒が心配な方や排泄の失敗を気にされる方に対しては、ベッドサイドにポータブルトイレを準備している。	排泄チェック表を活用しながら日中は声掛け誘導にてトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレ使用やパット交換等、状態に合わせて支援している。おむつからリハビリパンツに改善された事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲用し、食事以外の水分補給が十分にできるような飲み物の種類や繊維質の多いものが		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々の体調の変化を確認しながら入浴支援を行っている。本人の希望や好み、羞恥心や恐怖心に配慮しながら時間帯や順番は相談しながら対応している。	天然温泉で週2回、午前中に体調や状態に応じて入浴支援を行っている。毎日入浴も可能で、拒否のある場合は声掛けの工夫や時間差で対応、必要に応じて清拭や足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーション、散歩、外出等日中の活動を通して生活リズムを作り、安眠に繋げ個別に休憩を取り入れている。寝付けない人にはお茶を飲みながら本人の訴えを傾聴し安心して休んで頂くよう対応している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の薬の目的を周知し、正しく服薬できるよう一人一人の薬剤情報提供用紙をファイリングしている。また調剤薬局薬剤師により内服の方法等について助言をもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の生活歴や趣味等を把握して本人が好きな事、できる事を支援し感謝の言葉を伝えるようにしている。楽しみながら自分らしく生活できるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ホームにこもりがちにならないように気分転換やストレス発散目的で散歩に出掛けたり、スタッフ同行でドライブ等園外活動に参加してもらうことで気分転換の支援を行っている。</p>	<p>天気の良い日には散歩や外気浴、花見や畑を見に行ったりしている。デイサービス利用者との交流もある。法人行事や地域行事への参加もあり、日常的に外出の機会が多い。医療機関受診時に家族と外出をしたり、個々の希望によりドライブに出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>殆どの入居者は家族が金銭管理している。馴染みの美容室の支払いや買い物時には本人が自力で支払うことができるようサポートしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族が遠方にいる入居者に対してはホーム便りや絵手紙、本人が書いた手紙などを郵送している。絵手紙を年賀状、暑中見舞いとして出したりと家族との交流を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器を洗う音、料理の匂いなど生活を感じられるものや、季節の行事、また行事食を提供するなど心地よく過ごせるような生活空間づくりに努めている。	リビングにはエアコン・空気清浄機・加湿器等を設置し、室温湿度の調整や換気に配慮し過ごしやすい環境である。壁には季節の手芸作品や写真を飾り、テーブル・椅子・ソファを配置し、畳スペースもあり、それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やリビングにソファを起き、そこでテレビを視聴したり、入居者同士が談笑するなど、くつろげる空間づくりに努めている。また季節ごとに掲示物を掲示するなど季節感が感じられるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅でご本人が使用していた食器や生活用品等を持ち込んでもらい、設えは違えども自宅での生活に近い環境で生活ができるような環境づくりに配慮している。	居室はエアコン・ベッド・洗面台・タンス・ロッカーが備えられ、家族の写真や遺影・テレビ・ラジオ等の使い慣れた品物を持ち込んでいる。明るい雰囲気居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレ、浴室、廊下等殆どの場所に手すりを設置し安全確保ができるよう配慮している。また本人の活動性を維持するために歩行器やシルバーカー、車椅子等個人の身体状況に合わせて取り入れている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない